図：マレーシアの脱炭素関連政策とその概要

1975

石油政策1975 ●
- 石油資源の効率的な利用
- マレーシアの石油資源を探査、開発、生産するペトロナスの独占権を規定

エネルギー政策1979 ●●
- 供給 - 適切、安全、コスト効率の高いエネルギー供給
- 利用 - エネルギーの効率的利用を促進
- 環境への配慮 - 環境への悪影響を最小限に抑制

●環境の持続可能性
●エネルギー効率

2000

燃料多様化政策2000 ●
- **再エネ**を、エネルギー供給ミックスにおける5番目の資源へ
- エネルギーの効率的な利用を促進

環境政策2002 ●
- 環境の管理、環境品質の継続的改善
- 天然資源の持続可能な利用を促進

2005

バイオ燃料政策2006 ●●
- 枯渇する化石燃料への依存を軽減するため、バイオ燃料の使用を推進

グリーン・テクノロジー政策2009 ●●
- エネルギーの自給と効率的な利用
- グリーンテクノロジーによる経済発展の促進
- 環境を保全し、環境への悪影響を最小限に抑えつつ、生活の質を向上

2010

気候変動政策2009 ●
- 持続可能な道筋の確立
- 環境と天然資源の保護

再生可能エネルギーアクションプラン2010 ●●
- **2025年までに電力容量構成の20%**を再エネに
- 再エネ産業の成長、再エネコストの適正化、再エネへの意識向上

エネルギー効率化アクションプラン2015 ●
エネルギー効率化により、エネルギー需要をベースライン比で**8%減**へ

グリーンテクノロジー・マスタープラン2017 ●
エネルギー、製造、運輸、建築、廃棄物、水の6分野を網羅する根本政策。**2030年までに、GDPあたりの温室効果ガス排出量を2005年比で45%削減**

2015

2020

低炭素モビリティー・ブループリント2021-2030 ●
EV普及に向けた行動計画。輸送燃料の利用削減、EV導入、代替燃料導入、輸送手段の転換

第12次マレーシア計画（2021-2025） ●●
3本柱の一つに持続可能性設定。**2025年までに、電力供給量に占める再エネ比率を31%とする目標**を再確認。太陽光やバイオマス等の再エネの重要性に言及。

再生可能エネルギーロードマップ2021 ●
水力に加え、太陽光を中心に**再エネ比率を2025 年までに31%、2035年までに40%**へ引き上げ。

国家エネルギー政策2022-2040 ●●
12の戦略と31のアクションプランの下、9つの目標を設定。例えば：
・大型車へのB30導入
・**EV普及率38%**
・**石炭比率**31.4%から**18.6%へ**

2023

エネルギー移行ロードマップ（NETR）第1弾 ●●
カーボンニュートラル実現に向け、政府として注力すべき6分野10基幹プロジェクトを特定

エネルギー移行ロードマップ（NETR）第2弾 ●●
基金設立や国家評議会による統治を柱に、プロジェクトを実行するための具体策や目標を設定

➡中間検査報告（2023年9月）
NETRへの準拠を強調

➡目標更新（2023年5月）
2050年までに再エネ比率70%へ

水素経済・技術ロードマップ（2023年10月）
マレーシア初の水素関連行動計画。NETRを補完する位置付け

長期低排出発展戦略（LT-LEDS）→今後策定・・・？
パリ協定に基づき策定・通報が招請されている、マレーシアとしての低排出型発展のための長期戦略

注1：特に重要な目標が盛り込まれているものを抜粋。
注2：色付きは、現アンワル政権下の政策。
出所：各種政府資料から作成

禁無断転載 COPYRIGHT (C) 2023 JETRO. ALL RIGHTS RESERVED.